



「こんにちは 市長です」

11月1日号

あっという間に秋になった。この夏は連日コロナが増え続け、全国で25万人を超えた日もあった。群馬県では3千人超えを記録した。コロナ警戒度1になっても、そのままマスクは標準になっている。減多なことでは外せない。昨日、八王子山公園でお会いした女性は「子どものマスク何とかならないですか。かわいそうです」と言う。集団の中でマスクを外していいかの判断は難しい。その日、市立太田高の百貨市があったが生徒たちはマスク越しに「野菜はどうですか。コシヒカリがありますよ」などと叫んでいた。早くマスクを外せる日が来るといい。

この夏は、加えて40度近い猛暑が続いた。けっこう慎重な私でさえ「学校の体育館に空調機器を設置したい」と議会質問に答えてしまった。渡りに船だった。災害時の避難所にもなっているので一石二鳥なのだ。中学校全校、来夏には間に合わせたい。小学校は新年度予算で対応していく。「お金、大丈夫なの？」と誰かにきくと聞かれる。「大丈夫です」が答え。実は土地開発公社が蓄えてきた20億円を市の一般会計に投入してくれた。議会でも市の貯金（財政調整基金）のことがよく取り上げられる。貯金は災害があつたり急にお金が必要になったりしたときに使う。いくら貯金しておけば適切と言えるか。現在116億円ある。他市に比べてかなり多い。借入金を減らし、片方で貯金してきたわけだから胸が張れると思う。ただ行政は貯金することが目的ではない。良質なサービスを市民に提供することが本来の仕事である。

敬老会が終わった。歌手の木山裕策さんたちに昭和歌謡を歌ってもらった。「楽しかったよ。来年もこれにして！」。みんなから笑顔をもらった。（10/17記）